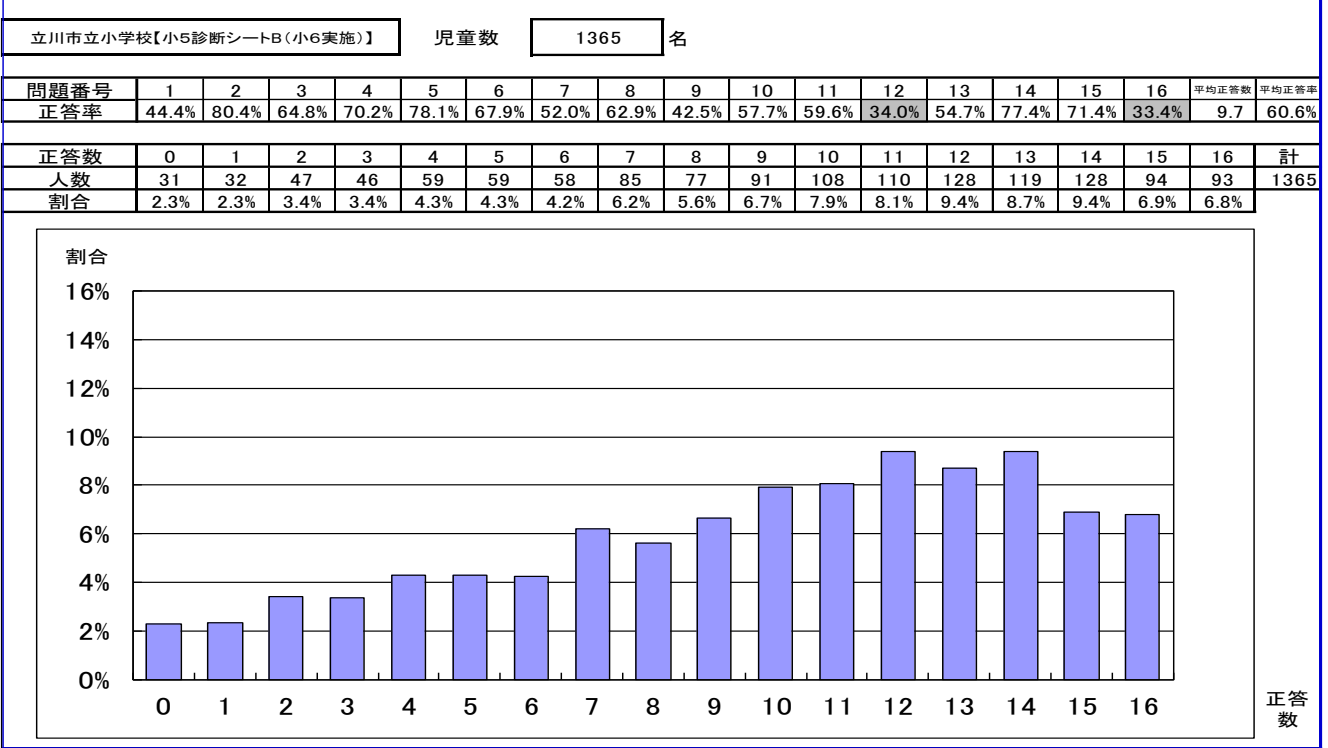


○令和2年度の学力調査等について

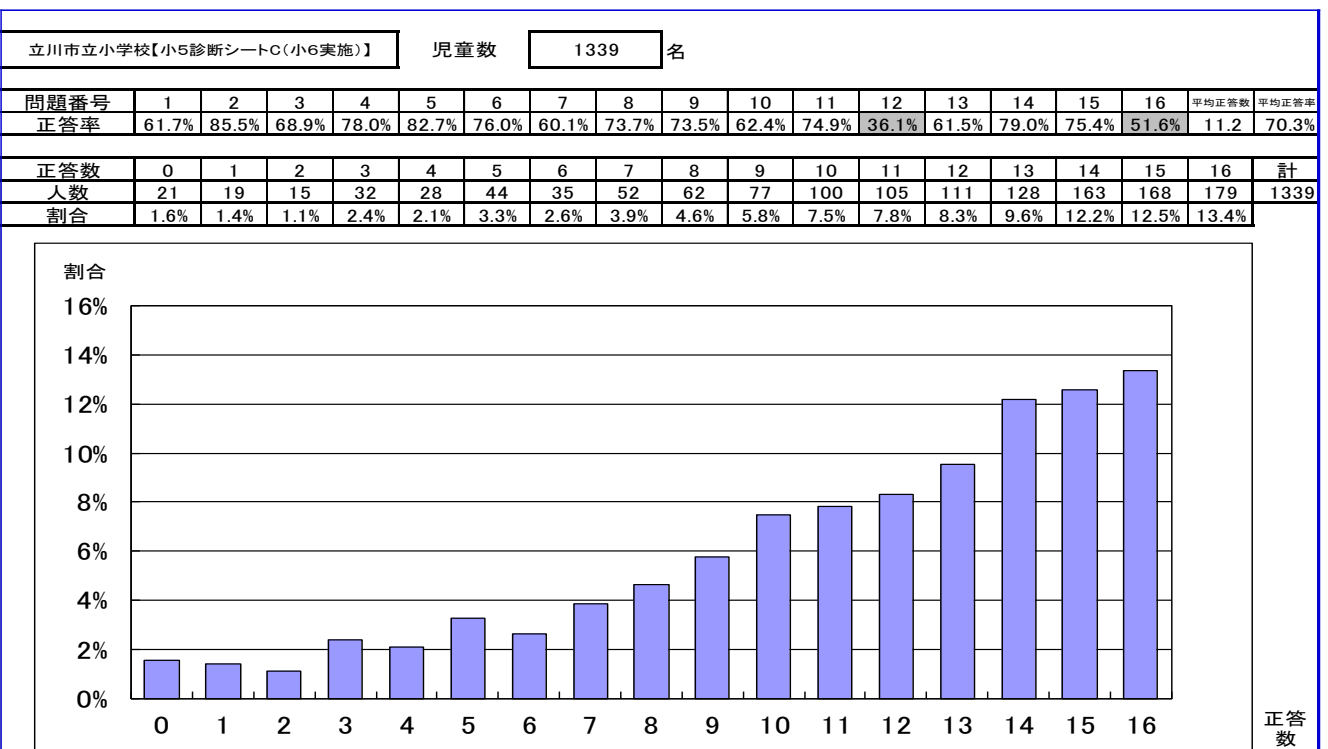
令和2年度については、新型コロナウイルス感染症対策等のため、全国及び東京都の学力調査は実施されなかった。

このため、各学校で使用されている「東京ベーシック・ドリル」の診断シート結果を教育委員会において集計・分析することにより、児童・生徒の学力の定着度を測ることとした。

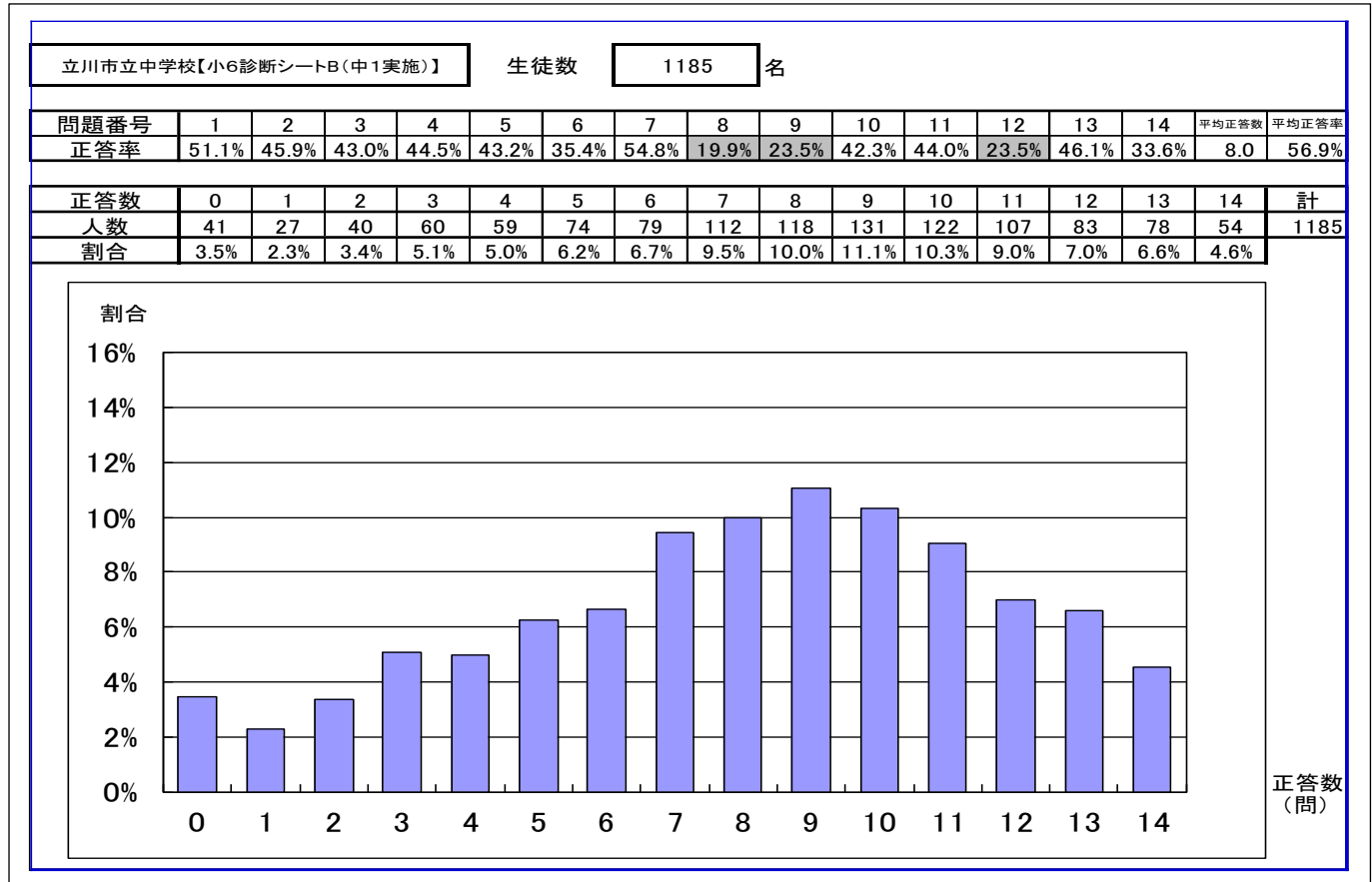
東京ベーシック・ドリル算数診断シートBの結果【小学校第6学年令和2年12月】



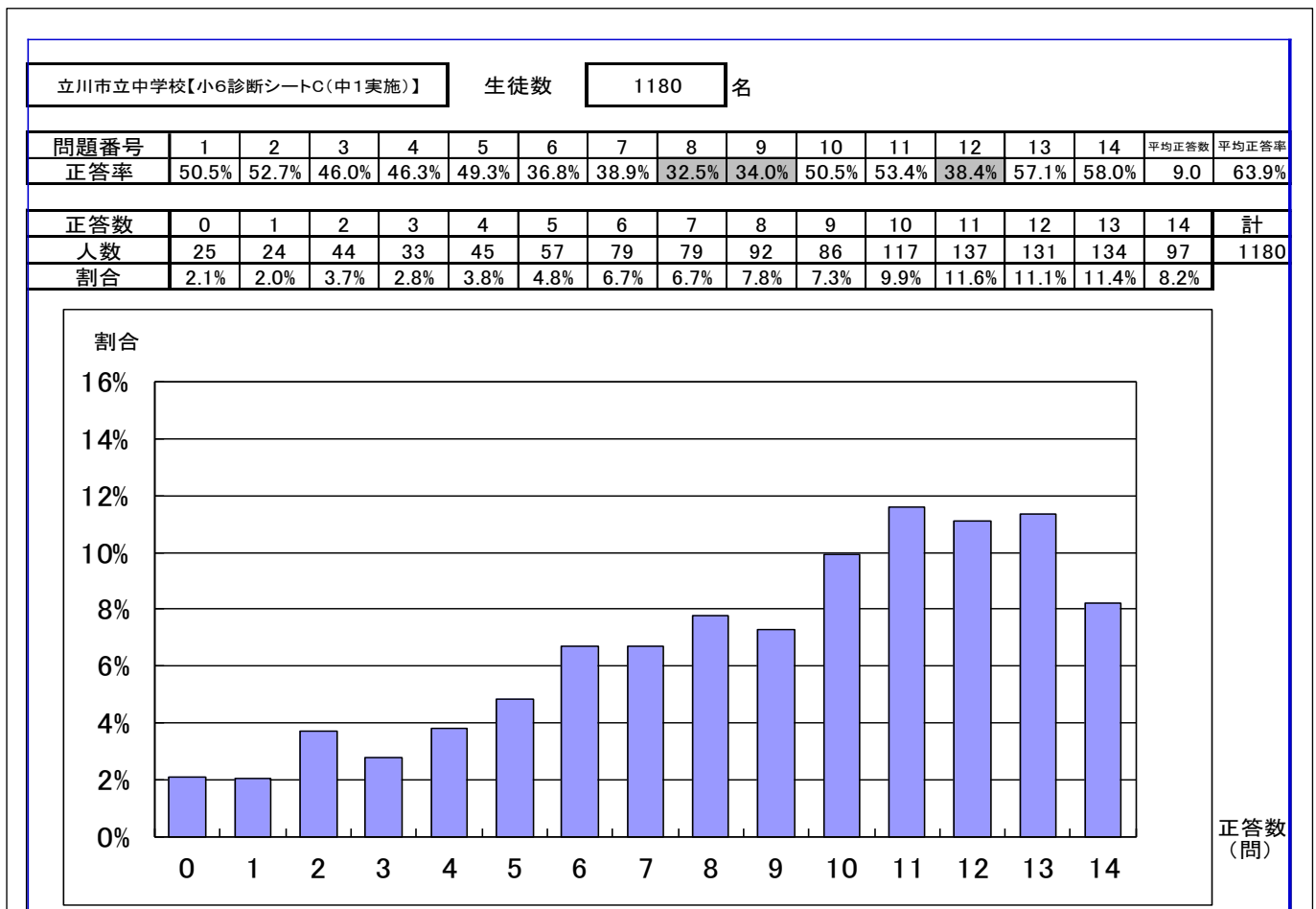
東京ベーシック・ドリル算数診断シートCの結果【小学校第6学年令和3年3月】



東京ベーシック・ドリル数学診断シートBの結果【中学校第1学年令和2年12月】



東京ベーシック・ドリル数学診断シートCの結果【中学校第1学年令和3年3月】



成果と課題

(成果)

- 令和2年12月の結果と比較して令和3年3月の結果の平均正答数、平均正答率が向上した。
- 正答数0の割合が減少した。
- 小学校、中学校ともに、学習内容の定着が進んだと言える。

(課題)

- 診断シートの難易度を考慮すると、さらなる正答率の向上が求められる。
- 誤答があった児童・生徒に対して個別の支援を充実させ、学習内容のさらなる定着を進める必要がある。

課題を解決する施策の展開

○児童・生徒への定着を促す支援

- 1 東京ベーシック・ドリルの活用の推進
⇒基礎的・基本的な内容の定着率向上により、児童・生徒の学習のつまづきを防ぐ。
- 2 授業改善に向け「立川スタンダード20」の活用及び充実
⇒児童・生徒への個別の手立てや手助けとなる教材の提示など、基礎・基本の定着に向けた授業改善の充実。
- 3 学習機会の複線化
⇒「地域未来塾事業」（放課後等の学習指導員の派遣）
- 4 PASEO（理科支援員）の配置
- 5 指導課訪問による授業力の向上
- 6 研究指定校事業のPDCAサイクル化
- 7 一人一台端末を活用した個別学習の充実

○児童・生徒のさらなる習熟への支援

- 1 ICT教育の推進
⇒タブレットPC端末の活用、プログラミング教育の推進
- 2 教育力向上推進モデル校事業の活用
⇒教科担任制、立川市民科、カリキュラム・マネジメント
- 3 学習機会の複線化
⇒小学校「地域未来塾事業」（企業等との連携）
⇒中学校「スタディ・アシスト事業」（企業等との連携）
- 4 立川版科学コンテスト
⇒夏季科学講座（中学生）の実施
- 5 小中連携外国語活動の推進
⇒小中連携の継続とALTによる支援の充実
- 6 立川市民科の充実
⇒探求的な学びを実現する教科横断的な学習の充実

○児童・生徒の意欲を育む支援

- 1 立川市民科の充実
⇒立川市民科地区公開講座の実施、令和4年度に向けた教科化の検討
- 2 キャリア〈生き方〉教育の推進
⇒立川夢・未来ノートの活用
- 3 「立川学級カスタンダード」の活用
- 4 幼保・小中連携教育協議会の開催
- 5 持続可能な社会づくりに向けた教育の推進
- 6 外国語活動の充実
⇒TGG体験学習への補助〈全小学校〉、東京都中学校英語スピーキングテスト〈全中学校〉
- 7 理科教育振興事業～Tachi・Rika～
- 8 市内全校でのコミュニティ・スクールの実施